

2018/3/4～2018/3/16

シンガポール・タイ

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）
グローバル・キャリア・デザインⅣ
第23回 FSP アジア全体報告書



目次

ファースト・ステップ・プログラム(FSP)とは？	2
第 23 回 FSP アジアの概要	2
研修日程	5
事前授業	7
現地研修	
シンガポール	
Singapore Management University (SMU)	9
Mechanobiology Institute, National University of Singapore (MBI)	11
National University of Singapore (NUS)	13
Yale NUS College	14
Ngee Ann Polytechnic	15
振り返りミーティング シンガポール	17
日本航空株式会社(JAL)シンガポール支店	18
訪問国調査活動 シンガポール	20
バンコク	
Chulalongkorn University	22
国際連合児童基金(UNICEF)	25
国際協力機構(JICA)バンコック事務所	27
バンコック銀行	28
タイ財団法人シーカー・アジア財団(SAF)	29
振り返りミーティング タイ	31
訪問国調査活動 タイ	32
参加者インタビュー	34
編集後記	36

ファースト・ステップ・プログラム(FSP)とは？

ファースト・ステップ・プログラム(通称:FSP)とは、北海道大学(以下、北大)海外研修プログラムであり、本学の全学教育の「一般教育演習(フレッシュマンセミナー)」において「グローバル・キャリア・デザイン」として開講している授業科目です。全ての課程を修了すると、2単位が付与されます。

このプログラムでは夏季と春季に 2~3 コースずつ開講されており、研修先は北米、アジア、欧州、中国等があります。今期は北米とアジアのプログラムが開講され、私たちはアジアプログラムに参加しました。約 2 週間の海外研修中には、国際機関や国際的に展開している企業・組織を訪れ現地で働く方々と対話を行ったり、現地の協定校・教育機関を訪れ授業体験や学生交流を行ったりと様々な研修が用意されており、グローバルに視野を広げ、「セカンド・ステップ」へと繋げる一歩を踏むことを目的としています。

私たちが考える FSP の特徴

FSP の特徴の中でも最大の特徴は大きく 2 つあります。まず、「語学研修」ではないということです。一般的な海外研修では、英語などを学ぶために海外へ行って、現地でその言語に慣れることを目的としていますが、FSP では現地での海外の学生たちとのコミュニケーションや、世界で活躍されている日本人の方の生き方から、発見・気づきを通して学びを得ることを目的としています。この研修で学べることは、日本に帰ってからの生活においても役立ちますし、今後の海外での活動への大きな一歩になると思います。英語などの外国語の学習は、このプログラムに参加するということをモチベーションにしたり、あるいは海外研修後に必要性を感じたりして各自で取り組んでいる人が多いです。

また、もう一つの大きな特徴は、様々な学部、学年から集まったおよそ 20 名の学生がチームで活動するということです。FSP では様々な「学び」を得るために沢山の機会が設けられていますが、長い期間みんなで協力し合って活動することで、チームワークの重要性を学ぶことができます。また、価値観や学部の違う学生との交流は、新たな視野や考え方を与えてくれますし、海外は初めてであるという学生も安心して行動できるなど、様々な利点があります。

第 23 回 FSP アジアの概要

海外研修期間:2018 年 3 月 4 日(日)~3 月 16 日(金)

渡航先:シンガポール共和国、タイ王国

参加人数:23 名

参加費用:20 万円程度【費用に含まれるもの】航空運賃、宿泊費、車両借り上げ代等

奨学金:日本学生支援機構(JASSO)奨学金(10 万円)が支給される可能性あり

(受給要件を満たす者は、JASSO 又は本学フロンティア基金新渡戸カレッジ奨学金を受給可能)

参加メンバー紹介



前列 左から

山口 楓太

(工学部2年・企業訪問班)

麻 裕毅

(農学部1年・企業訪問班)

◎松本 大成

(教育学部2年・総務企画班)

杉本 紫織

(文学部1年・記録広報班)

小林 理彩

(法学部1年・総務企画班)

依田 恵

(医学部1年・記録広報班)

玉田 梨恵

(農学部2年・記録広報班)

酒井 聡史

(理学部1年・企業訪問班)

中列 左から

内林 大志

(農学部2年・総務企画班)

野中 康伸

(工学部2年・企業訪問班)

中駄 勇太

(医学部1年・総務企画班)

○山中 一輝

(経済学部1年・総務企画班)

鶴間 あい

(農学部1年・プレゼン班)

高橋 美紗

(総合文系1年・プレゼン班)

○鈴木 美音

(文学部1年・総務企画班)

村井 佳奈

(農学部2年・記録広報班)

後列 左から

明日香 瑞穂

(文学部2年・企業訪問班)

鳥山 星呂

(農学部2年・プレゼン班)

高野 翔

(工学部1年・プレゼン班)

岩田 楓

(総合理系1年・記録広報班)

西村 治菜

(法学部2年・記録広報班)

金井 美緒

(医学部1年・記録広報班)

今泉 友吾

(経済学部1年・記録広報班)

(◎はリーダー、○はサブリーダーを表す)

引率:国際連携機構 川端
千鶴先生

班の概要

メンバーはそれぞれの役職・班に所属し、活動を行います。
班は大きく4つに分けられています。班は以下の4つです。

リーダー・サブリーダー

総務企画班の仕事に加え、チーム全体のまとめ役や毎晩のミーティングの司会進行を担当。

総務企画班

訪問校での学生交流の企画運営、訪問校についての学習会や学生ミーティングの企画運営を担当。また、宿泊先の部屋割りや、名札や参加者リストの作成、訪問先への手土産購入を担当。

企業訪問班

訪問する企業・組織についての事前調査・しおり作成、全体での学習会開催、現地での誘導、手土産購入・持参、対話における議事録作成などを担当。

プレゼンテーション班

訪問校の学生に日本の教育制度や、北海道大学に留学する際に魅力的な点について紹介するプレゼンを担当。

記録広報班

Facebook・Twitter・Instagram の SNS を通しての研修報告・広報活動と研修後の帰国報告会での発表、ならびに本報告書の執筆を担当。

FSP Facebook・Twitter・Instagram アカウント

Facebook 「北海道大学 ファースト・ステップ・プログラム」

@1ststepprogram <https://www.facebook.com/1ststepprogram/>

Twitter 「北大 FSP@2018 春」

@fsp_hokudai https://twitter.com/fsp_hokudai

Instagram 「FSP2018 春 北米・アジア」

@fsp2018_spring https://www.instagram.com/fsp2017_spring/

記録広報班が中心となって運営しているアカウントです。Facebook、Twitter と Instagram については、代々共用となっています。

研修日程

	日付	都市、地域	活動内容
1	3/4(日)	新千歳→ シンガポール	11:30 集合 13:00 新千歳発
2	3/5(月)	シンガポール	00:45 シンガポール・チャンギ国際空港着 02:00 宿泊先寮着 12:00 全員で近隣のフードコートで食事
3	3/6(火)	シンガポール	10:00-11:30 教育機関訪問 Singapore Management University(SMU) 15:00-17:00 企業・法人訪問 Mechanobiology Institute(MBI)
4	3/7(水)	シンガポール	10:00-15:35 協定校訪問 National University of Singapore(NUS) (学生交流・授業参加 [Itadakimasu-Food in Japan]) 16:00-18:00 教育機関訪問 Yale-NUS College
5	3/8(木)	シンガポール	10:00- 教育機関訪問 Ngee Ann Polytechnic (学生交流→ランチ→アウティング)
6	3/9(金)	シンガポール	09:00-13:00 振り返りミーティング
7	3/10(土)	シンガポール →バンコク	08:30-10:30 企業・法人訪問 日本航空株式会社 12:25 チャンギ国際空港発 13:45 スワンナプーム国際空港着 19:00 全員で夕食
8	3/11(日)	バンコク	18:00-20:00 本学バンコク同窓会(本学卒業生)と懇談
9	3/12(月)	バンコク	終日 協定校訪問 Chulalongkorn University
10	3/13(火)	バンコク	10:00-11:30 企業・法人訪問 国際連合児童基金(UNICEF) 12:30-16:00 企業・法人訪問 国際協力機構(JICA)バンコク事務所 (昼食・ご講話・プロジェクトサイト訪問)
11	3/14(水)	バンコク	09:30-11:00 企業・法人訪問 バンコク銀行

			13:30-16:30 企業・法人訪問 タイ財団法人シーカー・アジア財団(SAF) (プロジェクト訪問[クロントイ地区スラム])
12	3/15(木)	バンコク	09:00-13:00 振り返りミーティング
13	3/16(金)	バンコク →新千歳	09:55 (JAL032 便)バンコク スワンナプーム国際空港発 17:30 羽田空港着(一部解散) 21:05 新千歳空港着 解散

宿泊先

シンガポール:NUS High School Boarding School

バンコク:MANDARIN HOTEL Managed by Centre Point National University of Singapore

(文責:金井)

事前授業

第一回

概要:担当教職員の紹介、授業概要、授業を受けるにあたってのマナー、手続きと宿題について、
FSP 参加者のための英語学習法

事前授業第一回目ということで、緊張感が漂っていました。授業での基本的なマナーとして「ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)」の徹底、またメールの書き方についての注意などもされました。ただ海外に行って終わりというのではなく、基本的なマナーやルールについても見直したり、普段の大学の授業では忘れがちな積極性を意識することができたりするのも、このプログラムの魅力の一つであると感じました。

第二回

概要:成績評価基準と授業課題、学生自己紹介、班分け、班活動

この回では、学生の自己紹介と班分けということで、参加者の顔合わせがありました。様々な学部から参加者が集い、それぞれに思いがあってこのプログラムに参加しているということを再確認し、研修がより楽しみになりました。

第三回

概要:授業担当の肖先生からグローバル・キャリア・デザインと異文化理解・異文化コミュニケーションについての講義

この回では、この授業科目にもあるグローバル・キャリア・デザインについての説明が主な内容でした。そもそも働くとは、キャリアとはどういうものなのか、グローバルとは何なのかについて考えることができました。普段、よく耳にする言葉ではありますが、どういう意味なのかということまでは深く考えたことがなかったため良い機会でした。

また、異文化適応についてなど、異文化とは何かということから異文化に関するいくつかのお話をいただきました。海外研修に実際に行ったときに、自分も体験するであろう「異文化」に少しの怖さと同時にたくさんのワクワクを感じました。

第四回(アジアと北米プログラム別々での授業)

概要:テロや銃撃などに対する安全・危機管理、海外生活の心得、ケース・スタディ

今回は、訪問国に応じた安全・危機管理について学びました。安全管理と危機管理の違い、留学中に問題が発生した場合の相談窓口などを学んだり、過去の FSP で起こった事例をもとにどうすればその事態を防げたのか、またどのような対応が適切かを数人に分かれて話し合ったりしま

した。海外経験に乏しい者として、海外で何が起こるか、起こってしまったときにどうするべきなのかを知ったり、考えたりできたことは大変貴重でした。

第五回

概要: 良い聴衆や良いフィードバックとは何か、プレゼンテーション班のプレゼンとフィードバック

今回は、各プログラムのプレゼンテーション班によるプレゼンテーションの発表がありました。その前に良い聴衆や良いフィードバックとは何かについて考える機会があったので、それを意識しながら聞くことができました。海外研修中、ご講話をお聞きする機会が多いため、「自分がどう考えているかではなくて、話し手が自分の態度をどう受け取るかが大切だ」ということを実践し続けるようにしたいと感じました。



(事前授業の様子)

ランチ会など研修前に行われたその他の企画

事前学習会のほかにも、総務企画班主催でランチ会が数回開催されました。参加者同士の交流を深めたり、過去にFSPに参加した先輩方に質問したりしました。

また、企業訪問班による訪問企業についての勉強会と、総務企画班による訪問校についての勉強会も行われました。

(文責: 依田)



(左:ランチ会の様子 右:事前勉強会の様子)

現地研修(シンガポール)

3日目

Singapore Management University(SMU)

研修3日目の午前中には2018年2月に北大と協定を結んだばかりの Singapore Management University 通称 SMU に訪問しました。SMU は北大と協定を結んだばかりということで、今回の訪問が協定を結んだあとに訪問する初めての北大生ということでした。



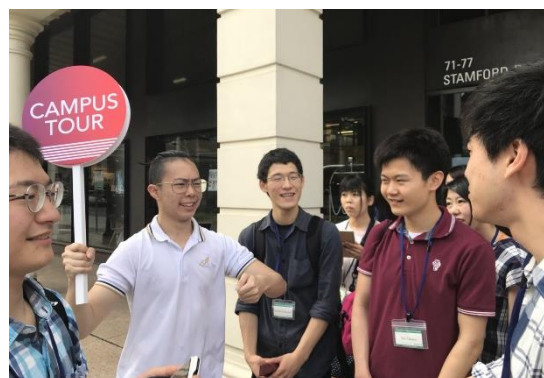
(SMU の建物の一つ)

SMU は世界専門大学ランキングで 11 位にランクインしている、シンガポール国内にとどまらず世界でもトップクラスの経済大学です。SMU は、シンガポールの中心部に位置する、2000 年に設立された比較的新しい大学で、6 つの学部からなり、それぞれで会計学、経営学、経済学、情報システム学、法学、社会科学の学士を取得できます。

今回の訪問では、まずキャンパスツアーを行っていただき、お互いの大学を紹介するプレゼンテーションを行いました。

キャンパスツアー

キャンパスツアーでは、最初に図書館を案内していただきました。図書館は 24 時間開館しているということだけでなく、学生が勉強に集中するためにはリラックスをすることが大切だということも様々な工夫が凝らされていました。例えば、ゆったりできそうな椅子が並んだ空間や、ゲームや軽い運動、更には音楽をするための楽器と防音室までがこの図書館の 1 階に備え付けられていました。さすがに優秀な学生さんでも、効率的に勉強するためには休息や気分転換が欠かせないのだということがわかり、自分も実践していきたいと思いました。次に地下道でつながっている各学部の建物を巡りながら、もう一つの図書館を案内していただきました。この大学は、シンガポール中心部の繁華街にあるため、地下 5 階までの建築がなされるなど、限られたスペースを有効に活用している印象でした。一方で、地上から見える部分は、街並みに溶け込むような美しく近代的な建築様式であり、さらに憩いの場の緑も豊富でした。二つ目に見学させていただいた図書館には、Learning Common というスペースがあり、様々な形の椅子や、プロジェクターが備え付けられてデ



(キャンパスツアーにて)

スカッションができる部屋がありました。また、入り口には無料でもらえる耳栓の自動販売機もありました。

学生交流

キャンパスツアーの後は、相互の大学についてのプレゼンテーションを行いました。SMU の学期制度が日本のものとは異なることなど、異なる国の大学についてのお話を聴くことは大変興味深かったです。また、今回キャンパスを案内してくださった方の留学の経験談などもお聞きできました。北大の方はプレゼンテーション班の初めての本番ということで、話し手、聞き手双方に緊張感が漂っていましたが、出発前の事前練習会以上に素晴らしいプレゼンで、終わった後の拍手はメンバーからのその努力への労いの意味合いも含まれているように感じました。

SMU では、図書館でのリラックススペース、充実した設備、建物同士をつなぐ地下道、そしてそれとつながっている地下鉄の駅など、北大にはないような設備や環境が整っていました。確かに北大にはそのような施設はないですが、そのことをただうらやんでいるだけではなく、自分の身の回りにある環境を十二分に活用することが私たちにできることであると感じました。また、振り返りミーティングの際には、今ある環境を変えることも一つの手であるのではないかという意見も出ました。

(文責:依田)

Mechanobiology Institute, National University of Singapore(MBI)様

主任研究員 茂木文夫 様 主任研究員 遠山祐典 様

シンガポール滞在 2 日目の午後には、研究機関である MBI 様を訪問しました。皆スーツなどフォーマルな服装に着替え訪問先へ向かいました。

訪問先概要

MBI 様は、シンガポールに 5 つある Research Centres of Excellence(RCE)と呼ばれる組織の 1 つで、2009 年に National Research Foundation(NRF)と Ministry of Education(MOE)によって設立されました。RCE は、世界に通用する研究者の育成や、特定の分野に特化した研究を進めることなどを目的として設立された組織です。それぞれの RCE は大学に所属しており、MBI 様は NUS によって主催されています。MBI 様には、数学、工学、物理、化学、生物学、パソコン科学など多数の分野の研究者が所属しており、オープンラボという環境の元、研究者同士が協力し合い革新的な研究が行われています。

授業内容

まず MBI 様の主任研究員である茂木文夫様からご講話をいただきました。茂木様からは、主に MBI 様が扱っている Mechanobiology という学問分野について、また日本の研究現場が抱える問題についてお聞きすることができました。

Mechanobiology とは、物理的な要因がどのように細胞に影響を与えるかを調べる学問領域のことです。生物の細胞や組織は遺伝子から作られますが、その際には、機械的な力が働いています。例えば、生物がもつある種の細胞は、周囲の物理的環境により異なる細胞に分化することが知られています。茂木様は、研究を進める際、想像(imagine)、測定(measurement)、工作(engineering)の 3 つが重要であると仰っていました。また、ご講話の後半ではシンガポールと日本の研究成果、研究者についての現状を比較し、両方に良い点があることを指摘したうえで日本の研究の問題点を指摘しておられ、説得力があり、勉強になりました。



(茂木様のご講話の様子)

次に、同様に MBI 様の主任研究員である遠山祐典様から「北大生が将来活躍するため」の戦略についてお話を聞くことができました。遠山様は、将来活躍し、生き残るためには「希少性を高めること」が大切だと述べられ、そのための戦略について、工学部を卒業したにもかかわらず、現在、

生物学を扱っているというご自身のユニークな経歴をふまえてお話してくださいました。遠山様のお話からは、「他人よりも優れていることばかりを目指すのではなく、他人にはない自分だけの強みをもつことが重要である。」というメッセージを感じ取ることができました。

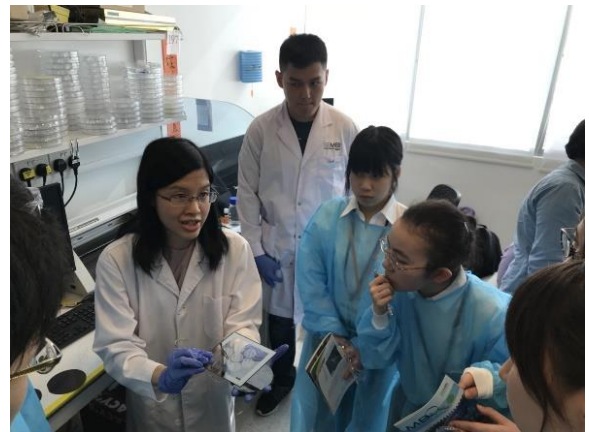
質疑応答の際、研究者としての道を選んだ時将来に対する不安はなかったかと尋ねたところ、お二人とも、「不安はもちろんあったが、自分が、面白い人生を送ることができると思った道を選んできた、後悔はしていない。」と仰っていたことが心に残っています。



(茂木様(最前列左から 5 番目)、遠山様(最前列左から 4 番目)、田守様(当時 MBI を訪問されていた研究者の方、最前列左から 3 番目))

ラボ見学

ご講和の後は、MBI 様の施設見学をさせていただきました。研究のための様々な設備、機械を見学しながら、行われている研究について説明をいただきました。扱っている研究は専門性が高く、案内や説明も英語が中心であったため、難しい内容でしたが、それぞれ必死に理解しようと努めていました。MBI 様ではオープンラボシステムを採用しており、日本の大学のように研究室が部屋で区切られておらず、広い部屋で様々な研究が行われていました。このシステムにより、様々な研究をしている人たちが協力しやすくなり、共同研究や新たな発見が生まれるなど様々なメリットがあるそうです。



(ラボで説明を受けている様子)

見学させていただいた MBI 様の施設は立派で素晴らしいものでした。また、オープンラボシステムを採用した研究室は開放的な印象で、閉鎖的なイメージがある日本の研究室とは全く違っており、強く心に残っています。案内の際、研究を紹介して下さった方のうちの 1 人は日本人の女性で、海外で働きたいと考えていた身として勇気もらえました。

見学が終わった後は遠山様と茂木様、そして当時 MBI 様を訪問されていた田守洋一郎様も交えて食事会が開催されました。学生はそれぞれの方と、将来や、お仕事について様々な事を話し、素晴らしい交流の時間となりました。

(文責:玉田)

4 日目

National University of Singapore(NUS)

北大の協定校であるシンガポール国立大学は、大学ランキングでアジア1位*に輝いている大学です。私たちは NUS の学生と交流をした後、実際に授業に参加させていただきました。

(*イギリスの教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(Times Higher Education)』より)

学生交流

まず、北大生と NUS の学生が互いにプレゼン発表や、自己紹介ゲームをしたりしました。NUS の学生は日本語がとても堪能で驚いたのですが、日本語を勉強し始めてからまだ2年半であると知り、なおさら驚きました。その後、キャンパス内を案内していただきました。NUS の学生による説明は日本語で行われました。NUS の敷地は非常に大きく、運動場では多くの学生がスポーツをしていました。また、美容院やスーパーなども敷地内にあり、NUS の中だけで不自由な生活をする事が可能であると学生が仰っていました。キャンパスツアーの後には学食で昼食をとりました。NUS の学食はフードコート形式で、日本や韓国、中国、インドなど、たくさんの国の料理がありました。

授業参加

学生交流の後には、「Itadakimasu-Food in Japan」という授業に参加させていただきました。授業はすべて英語でしたが、予習課題とされた英語の論文を事前に読んでおり、授業の内容は日本の食に関するものであったため、理解することができました。集団で行動しようとする日本人特有の意識が食事にも影響していることなど、日本人の視点ではあまり考えたことのなかった考えで日本の食事の形式を捉えていて、改めて日本について学ぶことができました。

また、「Itadakimasu-Food in Japan」が大変人気な授業であったことから、シンガポールの学生が日本の食事について興味を持ってくれていると分かり嬉しくなりました。

(文責:金井)



(キャンパスを案内して下さった学生と FSP メンバー)

Yale-NUS College

NUS の訪問後に隣接する Yale-NUS College に訪問させていただきました。約二時間という短い時間ではありましたが、前半は学生交流、後半はキャンパスツアーを行っていただき、Yale-NUS College について多くのことを知ることができました。

学生交流

はじめに Yale-NUS の日本人留学生の方から大学の紹介をしていただきました。Yale-NUS College は、2011 年にアメリカのイェール大学と前述のシンガポール国立大学が共同で設立した学びの共同体とも言える大学です。リベラルアーツという学びのシステムが取り入れられており、専門分野ではない教養科目を学ぶ必要があるそうです。総生徒数が約 500 人である事に対し、教員数が 120 人と生徒に対する教員数がとても多く、手厚い教育を受ける事ができるという話やリベラルアーツによる苦労や楽しさ、留学生が 40-50%をしめる中での全寮制の生活にまつわる話を聞き、日本の大学にはない Yale-NUS ならではの特色をたくさん知ることができました。

次に、Yale-NUS の学生による弾き語りのパフォーマンスが行われました。日本の曲と英語の曲を一曲ずつ演奏していただきましたが、どちらの曲も彼女の染み渡るような歌声が入ってきて、言語の壁を感じさせない、と思いました。その後、北大の学生によるピアノの演奏や恵迪寮の寮歌である「都ぞ弥生」の合唱が行われ盛り上がりました。言語に関係なく盛り上がることができ、音楽が世界をつなぐ瞬間を見たような気がします。

キャンパスツアー

学生交流後、グループに分かれてキャンパスツアーを行っていただきました。キャンパス内には、立派な講堂やシンガポール内に数箇所しかない最新の設備を整えた演芸場やダンススタジオなどの日本の大学にはない設備がたくさん見受けられました。また寮とキャンパスが一体化しているような構造になっているため、寮の部屋から教員の部屋や教室まですぐに行くことができるのも良い点であると感じました。広い中庭では教員の飼犬の誕生日パーティーなども行われることがあるそうで、学生と教員の距離の近さも感じました。



(Yale-NUS College を案内して下さった学生さんと FSP メンバー)

(文責:村井)

5日目

Ngee Ann Polytechnic

シンガポールの5日目には Ngee Ann Polytechnic に訪問いたしました。

学生交流

まず全体での学生交流を行いました。Ngee Ann Polytechnic の学生さんによる日本語でのシンガポールに関するクイズ、北大からのプレゼンテーションと文化紹介を楽しみました。シンガポールに関するクイズでは、普段日本語を学習している Ngee Ann Polytechnic の学生さんがわかりやすい日本語で、シンガポールの基本情報や文化、日本との接点などに関する問題を出してくださいました。シンガポールの意外な一面を知ることができたり、さらには思わぬところに日本の文化があったり、シンガポールの学生さんがどのように日本を見ているのかということも感じられて大変面白かったです。自分が留学生を歓迎する側に立った時には、日本とその留学生の祖国の双方に関わる事柄などをクイズにすることで、意外な発見がありお互いに楽しむことができるのではないかと思います。北大のプレゼン班は、シンガポールでは最後のプレゼンテーションとなりました。シンガポールでは全部で4回プレゼンを行いました。同じシンガポールの学生でも、訪れる学校によって反応が様々だったのが印象的でした。北大からの文化紹介では、松本リーダーと内林君による剣道の型、山口君によるけん玉、酒井君によるフラッシュ暗算が披露されました。言葉での説明にとどまらず、その場で共有する空気感で伝わる技のすごみを共有できたことも、文化は言葉を超えることを体感できました。



(文化交流で剣道を披露している様子)

アウトティング

全体でのプログラムが終了した後は、5、6人ほどのグループに分かれて Ngee Ann Polytechnic の学食でお昼ご飯を食べた後アウトティングに行きました。アウトティングでは班ごとにシンガポールのいろいろなところを案内していただきました。私の班は、サルタンモスクと観音堂、マリーナベイ・サンズ、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイに連れて行っていただきました。班にマレー系の学生さんと中華系の学生さんがいたので、それぞれの宗教について、解説して頂いたり、普段の生活と宗教のかかわりなどについてもお話を聞けたりしたことが貴重だったと感じました。



(学食での昼食の様子)



(サルタンモスク)

振り返りミーティングの時に、どの班でも Ngee Ann Polytechnic の学生さんが私たちを楽しませようと一生懸命に考えて動いてくださっていることが印象的だったという声が上がりました。ここで、もてなしていただいたその心遣いそのものが、今後自分がどういう行動をとっていきたいかという「セカンド・ステップ」のきっかけの一つになったように感じます。

(文責: 依田)

6日目

振り返りミーティング シンガポール

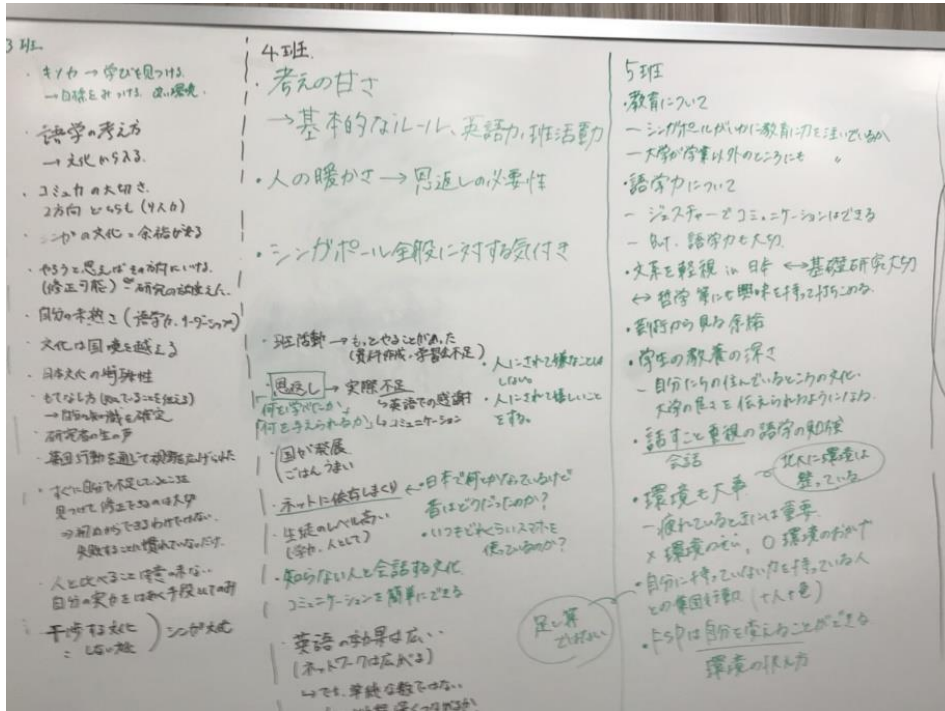
シンガポール滞在最終日には、振り返りミーティングを行いました。今回は NUS の会議室をお借りすることができました。ミーティングについて決められていることは、終了時間と「気付き」という話し合いのテーマのみ。どのような構成で行い、時間配分はどうかなどはすべて学生たちが自ら話し合いで決定しました。「自主性」を重視する FSP らしいやり方だと思います。

振り返りミーティングは、7 つの班に分かれ、それぞれの班が「気付き」というテーマで話し合ったのち班ごとに発表を行い、他の班がそれに対する意見、質問をするという形式で行いました。発表の内容はホワイトボードに書かれ、すべての班の発表が終わるころにはホワイトボードが学生たちの意見でいっぱいになっていました。様々な意見が共有され、自分一人ではわからなかった新たな「気付き」を沢山発見することができました。



(振り返りミーティングの様子)

(文責:玉田)



(ホワイトボードいっぱいの様々な「気付き」)

7日目

日本航空株式会社(JAL)シンガポール支店様

シンガポールで最後に訪問させていただいたのは、チャンギ空港の中にある日本航空株式会社様のオフィスです。私たちは今回、シンガポール支店長の山下康次郎様と、シンガポール空港所客室乗員セクションの客室マネジャー川口純子様のご講話を聴かせていただきました。

川口様のご講話

はじめに、川口様にご講話をいただきました。川口様のご講話の主題は、「理想論ではなく、夢を強く持ち、粘り強く諦めずに努力をすることが大切だ。」というものでした。4歳のころからキャビンアテンダントになるという夢をお持ちになり、昔からその夢に向かって、普通の人の比ではないほどの努力を積み重ねてこられ、見事、その夢を実現された川口様は本当に素晴らしい方だと感じました。

また、私個人として強く印象に残っているのは、自分のやりたいことが自分に適性があるかどうか分からないとき、とりあえずやり遂げるまでは適性があると思込み、粘り強く努力してみることが大切だと仰っていたことでした。この川口様の言葉は、私自身の背中を大きく押してくれるものでした。



(山下様、川口様と FSP メンバー)

山下様のご講話

川口様のご講話の後には、山下様のご講話をしてくださりました。山下様のご講話の主題は、「周りに左右される夢ではなく、自分で叶えられる夢を持つことが大切だ」というものでした。自分がどういう人間になりたいのかを考え、他人次第でなく自分の努力次第で叶えられる夢を持ち、実現させることで、自分自身を作ることができる、とのことでした。

山下様は、以前は銀行に勤務されていましたが、湾岸戦争の時に難民の方々に対し救援活動を行っていた JAL に衝撃を受け、「人として生まれてきたからには、人のためになることをしていきたい。」という思いをお持ちになったそうです。その思いから、多くの人々が亡くなっている一方で巨額の利益を上げる以前の職をお辞めになり、JAL に入社されたとのこと、本当に温かい方であることが分かりました。

お二人のご講話は本当に素晴らしいもので、生徒からの質問も盛んに行われ、時間の関係で強制終了してしまう、などという事態も見られました。終わった直後にメンバーに感想をたずねたところ「多様な文化を知ったうえで、その人自身とかかわるということと、どういう自分になりたいかに合わせてどういう人生を歩むかとか、留学とかの選択をするということがご講話の中にあっただけですが、それがシンガポールでのまとめというように感じた。」と話していました。また、ご講話の後、私たちが搭乗口まで案内していただき、さらに私たちが搭乗する瞬間まで手を振っていただき、私たち一同はお二人の温かさに感銘を受けました。

(文責:金井)

訪問国調査活動 シンガポール

シンガポールでは、初日 3 月 5 日午後と最終日 3 月 9 日午後訪問国調査活動を行いました。訪問国調査活動とは、能動的に訪問国に関する知識や理解を深めることを目的として行う社会調査です。FSP メンバーは自分の専門分野や興味のある分野について、事前の情報収集や計画をもとに様々な調査を行いました。その一部を以下に紹介します。

シンガポールにおける民族多様性

シンガポールは、中華系・マレー系・インド系といった民族で構成されています。したがって国内にもその民族多様性が感じられる場所が多く残っています。チャイナタウンには、中華料理のホーカーが多く中華グッズも多く見られました。中華系はシンガポールの中で約 7 割を占めているため、

チャイナタウンに限らず駅の表示やマップなどにも中国語が併記されていることが多かったです。リトルインディアでは、サリーを身につけた人々だけでなく、ヒンドゥー教の寺院であるスリ・ヴァラマカリアマン寺院も見ることができました。またアラブストリートではイスラムの宮殿を見ることができました。上記三箇所は程近い距離にあり、シンガポールにおける民族の共存を強く感じることができました。加えて、中華系移民の子孫が独自に作り上げた伝統文化であるプラナカン文化があります。プラナカン建築によって建てられた家には現在も人が住んでいて、様々な文化が今もシンガポールに存在していることを改めて実感しました。



(左: スリ・ヴァラマカリアマン寺院、右: プラナカン建築による住居)

シンガポールにおける食文化

シンガポールは食料自給率が低く、その供給の大半は輸入に頼っています。加えて前述のように、多様な民族で構成された国家であるため、食文化の混在が予想されました。スーパーには様々な食材が並んでいましたが、同時に様々な言語で書かれた商品も目立ちました。セブンイレブンでは飲料コーナーにたくさんの種類の日本製飲料が見られました。大学の食堂やホーカーでも、中華料理やインド料理、日本料理など様々な料理を出すお店がありました。

(文責:村井)



(左: 日本語で説明の書かれた日本製飲料、右: シンガポールのソウルフード、チキンライス)

現地研修(バンコク)

3日目

Chulalongkorn University(CU)

タイでの初めての研修先はチュラロンコン大学の経済学部でした。チュラロンコン大学はタイの王室との歴史的なつながりが深く、タイでもトップレベルの大学です。チュラロンコン大学と北大は大学間協定大学なので将来、交換留学を考える方もいるかもしれません。

大学の紹介とご講義

チュラロンコン大学では、まず大学についてのご紹介を頂いた後、Piti Srisangnam 教授から「ASEAN at 50」というタイトルでご講義を頂きました。内容はタイからみた 50 周年を迎えた ASEAN に関するお話でした。ASEAN は、今後ますます発展していくインドや中国も近くにあり、さらに交通の要衝のマラッカ海峡も持っています。実際、インドの物流の 50%がマラッカ海峡を通っているそうです。このことは発展の大きな礎になるということについて、パナマを持つ中米の国パナマの具体例などを交えてお話を頂きました。

東南アジアの中心にある国としてのタイから見ると、世界の経済はこのようにみえてくるのかと素直に驚きました。世界の情勢について中心の国が変わってくると、みえてくる世界も変わってくるなと感じました。また ASEAN について、教授が誇りを持って語っていたことが印象的でした。経済だけでなく、安全保障などを始めとして、地理的に近いことを活かした協力を行うシステムなどのご説明もいただき、それらに対する自信を感じました。今後も ASEAN の動きに注目していきたいなと感じました。



(講義の様子)

学生交流

お昼は食堂でチュラロンコン大学の学生さんと一緒にタイ料理を頂きました。エビやココナッツが入ったスープのトムヤムクンや木の実のできた甘いお茶を始めとする色とりどりのおかず、そしてデザートにはココナッツミルクにつけたバナナを頂きました。

昼食の後は、学生同士が相互にプレゼンテーションをして、総務企画班による自己紹介ゲーム、そして文化交流をした後に、チュラロンコン大学の学生さんに大学の博物館とキャンパスを案内していただきました。博物館では大学の歴史や取り組みが紹介されていて、チュラロンコン大学の歴史の長さや、王室と深くかかわりがある大学の歴史などを誇りに思っていることが伝わってきました。大学の歴史を見ていく中



(昼食の様子)

で、第二次世界大戦の際、日本が「大東亜共栄圏」としてアジア地域の支配を強めていたころの展示に差し掛かると、日本についての記述もありました。タイからみたらどのように記述されているのかなど時間があつたらもっとじっくり読んで自分なりに考えてみたかったなと思いました。キャンパスツアーに関しては、解説して下さった学生さんが



(チュラロンコン大学の博物館にて)

自分の大学の歴史について詳しく知っていることが印象に残って自分も北大について勉強したいと思ったという意見も出ました。

チュラロンコン大学のキャンパスは、緑が多くて広大でそれとなく北大を思い起こさせるような雰囲気がありましたが、植わっている植物には初めて見るものも多く、気候の違いを感じました。

夕方は、アウトティングということでいくつかのグループに分かれて一緒にご飯を食べに行きました。タイ料理を食べに行った班や日本食を食べに行った班など様々でした。吉野家に行った班のメンバーからは、吉野家の味は一緒だったけれどチュラロンコン大学の学生さんはお箸でなくスプーンとフォークで食べていて、文化が浸透している面としていない面があるのだなと感じたと話していました。

午前中の授業でも、博物館における日本についての記述についても、自国にいと気づくことができない点がたくさんあったり、見落としている事などが多くあったりするのだなと思いました。また、「日本の天皇とタイの国王はどう違うのですか？」とチュラロンコン大学の学生さんに聞かれたメンバーもいて、これまでの学習で「象徴天皇としての日本の天皇」について憲法や法律などを学んできたけど、タイの国王とどう違うのだろうと話題になりました。学生同士という、心理的に距離が近い関係になりやすい間柄だからこそ、生活とか心理面に密着した疑問のやり取りなどをできるのかなと思いました。研修を通して、「外国としての日本」、「外国人としての日本人」とはどんなものなのかを考えてみるきっかけになると同時に、今後の学びの姿勢も考え直していきたいなと感じました。英語に関しては、「お互い第一外国語が英語ということで比較的話が聞き取りやすいなという印象があったが、中には聞き取りにくいと感じる人もいたので、お互いに発音とか文法とかを気にしつつ話すことができればよりコミュニケーションが取りやすくなるだろうと思った。」という意見もありました。なんとなくで感じ取ってもらえる人は相手がネイティブでないと難しいと思うので、きちんと誰にでも聞き取ってもらえる英語を心がけたいという思いを強くしたそうです。

(文責: 依田)



(チュラロンコン大学設立者タイ国王ラマ 5 世とラマ 6 世の銅像前にてチュラロンコン大学の皆様と)

4 日目

国際連合児童基金(UNICEF)様

伏見暁洋 様

バンコク滞在 4 日目の 3 月 13 日には、UNICEF:国際連合児童基金(以下、ユニセフ)様を訪問し、伏見暁洋様にご講話をいただきました。皆様ご存知のユニセフは、世界中の子供たちの命と健康を守るために活動している国連機関です。190 の国と地域で活動しており、その活動資金はすべて募金や任意拠出金によってまかなわれています。

伏見様のご講話

ご講話では、まず伏見様がユニセフで働くまでのご経歴についてお話をいただきました。伏見様は、青年海外協力隊でハンガリーへ行き、そこで出会った差別、貧困に衝撃を受け、教育に興味を持ったと仰っていました。

ご講話の中で頻繁に出てきたのは、「誰も取り残さない」という言葉です。たとえば、ポリオはワクチンなどにより約 99%患者数が減少しましたが、未だに 1%が残っており、撲滅に至っていません。この最後の 1%をなくすことがとても難しい、と仰っていました。今まで大多数の救われたほうにばかり目を向けてきた私にとって、この考え方は新しく、本当にすべての子どもたちを救おうとするその信念に衝撃を受けました。



(ご講話の様子)

さらに、いくつかのグループに分かれ、「最も恵まれていない『取り残されている』子どもたちはどんな子どもたちだと思うか。」という議題で短時間のディスカッションも行いました。ディスカッションでは、様々な意見が出て、自分では気付かなかった視点からの意見を聞くことができ、新たな発見をすることができました。このディスカッションや様々なお話を通して、子どもたちが教育から取り残されている原因は単に貧困などだけではなく、障害、地理的な問題、また子どもたち自身やその親の教育に対する無関心など

様々なものがあるとわかり、非常に根深い問題だと実感しました。

また、ユニセフ職員の方のキャリアについても詳しくお話していただきました。職員は全員契約社員で、契約が切れる 2 年ごとに就活をし、自らの手で職を得なければならないということ、巨大な組織であるが故の問題点など、普段知ることのできないユニセフの一面を知ることができました。

質疑応答は非常に盛り上がり、生徒からの多くの質問すべてに丁寧に答えていただきました。

私が、「教育を必要としないでいて、なおかつ教育を受けたいと考えていない子どもたち(例えば、農耕で十分に生活できており、文字の読み書きが必要ない方など)にも教育を施すべきだと考えているか。」という旨の質問をしたところ、伏見様は、「現在はすごい早さでグローバル化が進んでおり、地球上に閉ざされたコミュニティはもうほぼ存在しない、そのため、人々を騙そうとする人間たちから自分たちを守るために教育は絶対必要だ。」と答えて下さり、自分の考えの甘さを実感することになりました。今ま

では、教育という文化を持たない人たちや、生きるために教育を必要としていない人たちに教育を施すのは、先進国から見た「幸せ」や「あるべき姿」の形を押し付けているのではないか、という思いが自分の中にありました。しかし、情報化が進み、交通網が発達した現代社会では自分の身を守るために教育が絶対に必要であるということがよくわかりました。また、「募金以外で、自分たち大学生が、差別や貧困など様々な問題を抱えた子どもたちのためにできることはあるか。」という質問に対して、「世界に存在する様々な問題について興味を持ち、知り、考えてほしい。また、そのような問題がある、ということを広めてほしい。」と仰っていたことが印象的でした。

(文責:玉田)



(質疑応答の様子)



(伏見様との集合写真)

国際協力機構(JICA)バンコック事務所様

UNICEFを訪問後、午後から国際協力機構(JICA)バンコック事務所に訪問させていただきました。訪問の前半ではバンコク中心部にある事務所で事務所長である田中啓夫様よりご講話を、澤内淳子様より視察先の説明を頂き、後半では JICA のプロジェクトサイトである鉄道の新駅、バンスー(BangSue)駅の工事現場を久保様に案内していただきました。

ご講話

田中様のご講話では、主に田中様のご経歴にまつわるお話と JICA による協力の内容についてお聞きしました。日本の ODA は他国と比較して有償資金協力の割合が多くなっており、無償資金協力ではなくあえて有償資金協力にすることで成長への刺激を与えて、あくまで自立するための支援をしているというお話が印象的でした。また田中様が私たちに送ってくださった「何かのスペシャリストになる」こと、その後に視野を広げることが大切であるというお言葉が、普通の人生を送ってきた私にはとても重い言葉でした。今はまだ、自分が何に向いているかはわかっていないけれど、一つの分野を極められるようになりたいと思いました。次に澤内様にバンコク大量輸送網整備事業(レッドライン)についてお話と安全説明をしていただきました。バンコク中心部における交通渋滞の緩和や大気汚染の緩和を目的とした事業であり、日本の円借款での建設はレッドラインで三本目になるそうです。

現場視察

JICA 事務所から MRT で 20 分ほど離れたバンスー駅に案内していただきました。その後久保様や工事現場の方々に貴重なお時間をいただき、駅の説明及び質疑応答をしていただきました。バンスー駅はレッドラインだけでなく、その他のラインの電車が乗り入れることが予定されているため、とても巨大な駅での工事現場を初めて見る私にはとても新鮮でした。運用予定は 2020 年ということでしたが、用地取得やタイ政府の意向などにより工期が遅れており、まだ完成には時間がかかるとのことでした。次にバンコクを訪れた際には完成したバンスー駅を見たいです。

(文責:村井)



(写真左:JICA 事務所の方々と FSP メンバー、右:現場を案内していただいた方々と FSP メンバー)

5日目

バンコック銀行様

タイ5日目の午前には、バンコックの中心にあるバンコック銀行様に訪問させていただきました。バンコック銀行は、優秀な人材、優れたコンピュータシステムを取り入れることで、お客様の要望に応え、お客様に良質なサービスを提供している銀行です。また、企業理念である「お客様と共に歩むこと」を体現しているタイ最大の商業銀行でもあります。環境保護事業にも取り組まれ、最近では QR コードで支払いができる“スマートタクシー”事業に参入されるなど、様々な活動を行っていらっしゃることで話題になっています。今回の研修では、北洋銀行に入行され北海道でお勤めになった後、現在ではバンコック銀行日系企業部にお勤めになっている、坂井格介様にご講話をいただきました。

ご講話

坂井様からは、タイやバンコック銀行についての基本的な情報、そして坂井様自身についてのお話を聴かせていただきました。

タイと日本の違いについて私にとって特に印象に残っているのは、タイの職員は遅刻が多かったり、さらには音楽を聴きながら仕事をしたりすることもあるというお話でした。今までは、世界には様々な文化や国民性があることは認識していたものの、日本のことしか知らない私にとってはとても衝撃的なことでした。また、タイの人々がどのような場面で手を合やすのかということや、手を合やす意味など実際に住んでみて初めて実感できることについても教えて下さりました。

坂井様は様々な経験をされ人間的にも大変優れたお方であっただけでなく、とても丁寧に私たちの質問に答えてくださったため、何度も質問をしているメンバーも見受けられました。

(文責:金井)



(バンコック銀行前にて坂井様と FSP メンバーの集合写真)

タイ財団法人シーカー・アジア財団(SAF)様

タイ5日目は、タイ財団法人シーカー・アジア財団様に訪問しました。まず財団様にてPR活動、募金活動の代表を務めていらっしゃる Nalynya Jaroonruangrit 様からご講話をいただき、その後スラムの見学をさせていただきました。シーカー・アジア財団様は子どもや青年たちの教育支援を中心として、図書館の運営や移動図書館の実施、奨学金や学生寮を始めとして様々な活動を行っています。また、最近力を入れている事業の一つとして、スラム地区で暮らす女性に対する職業訓練も行っています。今回の研修ではその様子や、そこで作った商品の販売店にも訪れさせていただきました。これは feemue というプロジェクト名で、数ある支援活動の中でも新しいタイプの取り組みです。今まさに多くのメディアにも注目されていて、つい3日前にも取材が入っていたそうです。

ご講話

訪問させていただいた際に、最初はタイの貧困層についてやスラムについてのお話、そして財団様の活動についてのご説明をしていただきました。人口増加や土地の価格の急激な高騰により、現在バンコクに住む人の37%がスラムに居住している状態だそうです。バンコクでは、住んでいる地域による貧富の差が大きく、それ故に同じ義務教育であっても地域によって教育のレベルに大きな差があるという現実があるそうです。チュラロンコン大学の卒業生であるリンさんの通っていた小学校には、タイでトップクラスの大学に進学した人が殆どであるように、学校ごとに教育レベルが大きく異なるそうです。スラムに住む家庭の子供は、自分の地域の学校の教育水準が低い場合が多く、十分な教育を受けられていないそうです。裕福でないと、塾などに通うこともできないため、公的教育機関が唯一の教育にアクセスできる場となりますが、その公的機関である小学校の教育が不十分だと、十分な教育を受けることができません。講師のリン様が「彼らは、頭が悪いのではなく、小学校で受けられる教育が違うから、高等教育を受けることもできないのだ。」とおっしゃっていました。その現実に一矢を報いるために、シーカー・アジア財団様は御活動なさっています。



(右が講師の Nalynya Jaroonruangrit 様)

スラムの見学

次に財団様の事務所が位置するクロントイ地区のスラムの見学をさせていただきました。バンコクでも繁華街とスラムの様子は全く違うのだとリンさんはおっしゃっていましたが、実際に目で見て、自分の足で歩いて、体で空間を感じると多くの面で様子が違ってくることがわかりました。まず、スラムは道が大変狭くてでこぼこしていました。講師のリン様のご説明で「広い場所がないから、思いつきり体を動かして遊んだり、走ったりすることができない」という言葉の意味がようやく理解できました。また、トタンの屋根や壁は薄くてきひ弱で、暑さや寒さ、そして生活騒音などから住人を守り切れていないことが想像できました。また、道の傍らのくぼみには大量のごみがあつたりして衛生状態はあまりよくないことが容易にみて取れました。



(スラムの様子)

メンバーの中から、スラムに行ったら思ったよりも人々の笑顔があつて、彼らは幸せなのかもしれないと感じたという意見がありました。それに対して、笑顔があれば幸せというのはどうなのだろうかという疑問が上がりました。彼らはあくまでも現状に「慣れているだけ」「あきらめている」であつて、だからこそ財団様のような活動が大切なのではないかという考え方もありました。実際に見てメンバー同士で感じたことをお互いに言葉にすることで、必ずしも物質的な豊かさが幸せに直結するというわけではないけれども、衛生環境が整っていたり、自分の子供に満足に教育を受けさせることができないとその人たちは本当に幸せなのかということを改めて考えるきっかけになりました。実際、財団様の運営する図書館で遊んでいた子供たちは大変楽しそうにしておりましたし、このような空間が子供たちや彼らに関わる人々の幸せを作り出しているのではないかなと私は感じました。また、教育は子どもが将来騙しや脅しに対して自分の身を守ることができる最大の武器です。その武器が住んでいる地域のせいで十分に磨けないとなると将来つらい思いをしてしまい、結果としてそれは幸せに離れないのではないのでしょうか。スラムで今の日々の生活で幸せそうに見えればよいというわけではないと私は考えます。



(バンコク都市部の様子)

(文責:依田)

6日目

振り返りミーティング(第1回事後授業) タイ

グローバル・キャリア・デザインは研修後に3回の事後授業が行われます。タイでの最終日午前に、第一回の事後授業でもある振り返りミーティングが行われました。議題は二つあり、まず「シンガポールとタイで学び・気づいたこと」、次に「グローバル・キャリア・デザインだからこそ学び・気づいたこと」について話し合いました。話し合い方も意見を出し合って決定しました。

始めの議題「シンガポールとタイで学び・気づいたこと」は、班内で話し合い代表が発表する形式をとりました。シンガポールの振り返りミーティングよりも、ひと回り深くなった学びや気づきが多く出ました。シンガポールやタイという国に関する、教育や経済、国民性といった多方面からの視点で述べられたものや、海外での生活において自分の中で得た変化について述べられたものもありました。

二番目の議題「グローバル・キャリア・デザインだからこそ学び・気づいたこと」は、個人が考え班内で共有した後、一人ずつが制限時間内で発表するという形式をとりました。グローバル・キャリア・デザインという授業の中で考えた、自分の将来についての発表が多かったように思います。制限時間内で自分が感じた多くのことをまとめて伝えるという難しさを感じつつ、全員の意見を共有できたことは、自分の考え方にとってプラスになったのではないかと感じました。

なお、第2回、第3回事後授業は帰国後に行われます。(報告書35ページ参照)
(文責: 村井)



(第1回事後授業の様子)



(振り返りミーティング後、川端先生とともに)

訪問国調査活動 タイ

訪問国調査活動はタイでも行われました。シンガポールとは違い、タイは広い国ですので、興味があり調査したい場所が遠すぎる、という事態もしばしば見られました。また、悪質なタクシーが多い、水上バスなどの運行時間が曖昧であるなど、様々な問題がある中、それぞれが限られた時間内で工夫して訪問国調査活動を行いました。

寺院

タイは国民の 90%以上が仏教を信仰している仏教国です。そのため、国内に寺院も数多くあります。中でも、「ワット・プラケオ」、「ワット・ポー」、「ワット・アルン」の3つは三大寺院として有名で、数多くの生徒がこれらの寺院を調査していました。



(左:ワット・プラケオ、右:ワット・ポー)

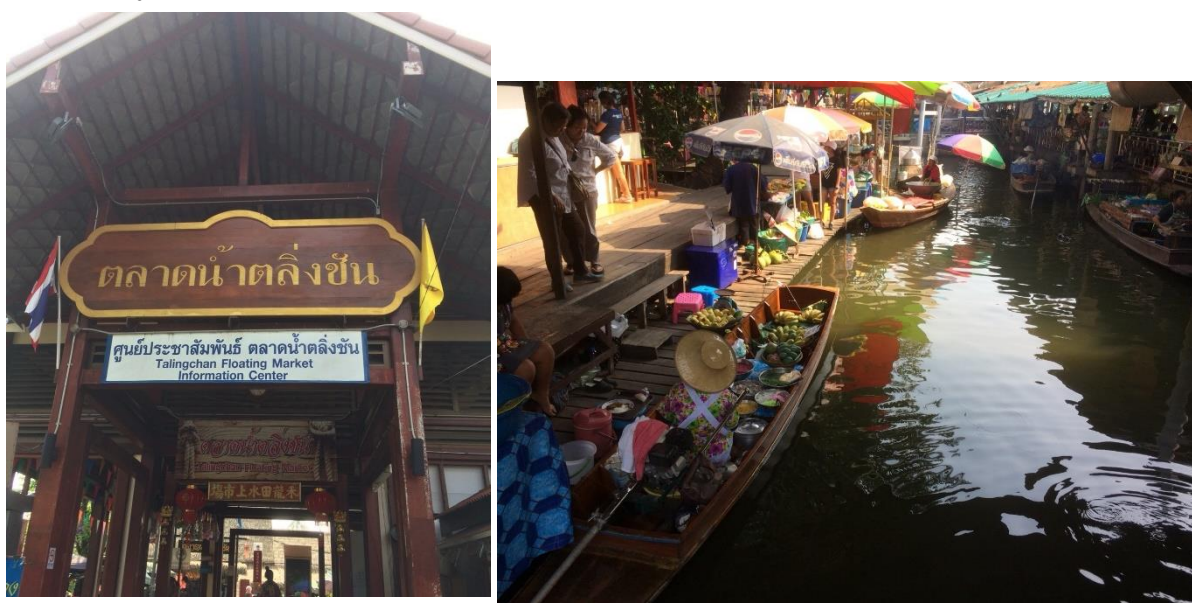
それぞれの寺院内には多くの建物があり、それぞれには気の遠くなるほど細かい装飾が施されています。タイの寺院の外観は日本の寺院とは全く違っており、全体として煌びやかで、エネルギーを感じました。寺院は信者の方達にとって神聖な場所です。そのため、観光客だとしても建物内に入る際には肌を隠すための上着の着用と帽子や靴を脱ぐことが義務付けられています。また、寺院内には熱心にお祈りをしている方達も大勢おり、タイの方の信仰心の深さを感じることができました。

水上マーケット

タイ独特の文化、商業を調査するために、水上マーケットに訪れた学生もいました。タイにはいくつもの水上マーケットがあります。訪問国調査では、小規模ではありますが中心部から比較的近いタリンチャン水上マーケットを訪れました。

水上マーケットでは、岸に並んだ船の上に、食べ物、雑貨など様々なものが売られていました。マーケット付近にはインフォメーションセンターがあり、また川を行き来する遊覧船などが運航しているなど、生活のための場というよりも観光業のための場という印象を受けました。しかし、マーケ

ット自体は非常にのんびりとした場所で、川とともに生きるタイののどかな雰囲気を楽しむことができました。



(左: インフォメーションセンター、右: 水上マーケットの様子)

現地の学生との交流

協定校訪問で知り合ったチュラロンコン大学の学生とともに訪問国調査活動を行う学生もいました。現地の学生と一緒に過ごすことで、不安が多くFSP生のみでは利用し辛いタクシーやボート、トゥクトゥクなどを使い目的地へスムーズに移動することができ、多くの場所を訪れることができ、大変充実した時間を過ごすことができました。また、現地に暮らす方ならではのおすすめの場所、お店にも案内していただき、貴重な体験となりました。

(文責: 玉田)



(チュラロンコン大学の学生の方と)

事後授業

第一回はタイでの振り返りミーティングです。(報告書32ページ参照)

第二回

概要: 帰国報告会のプレゼンテーションの発表練習とフィードバック、セカンドステップに向けて今回は、第三回事後授業にて行われる帰国報告会でのプレゼンテーションの発表が記録広報班によって行われました。この研修がどういうことを学べるものかについて、聴衆の方々にわかりやすい発表はどのようなものなのかについて、考えることができました。

また、このプログラムを終えようとしている今、この研修をどのように今後生かしていくかのビジョンについてメンバー同士でディスカッションをしました。研修に行く前とは違った考え方や新たな発見を元に話せたなと感じ、これからどのように経験を積んでいくか考えていきたいです。



(プレゼンテーションの様子)



(ディスカッションの様子)

第三回(帰国報告会)

概要: 北米プログラム・アジアプログラムの記録広報班によるプレゼンテーション、参加学生との座談会

研修に実際に行ったメンバーを代表して、各プログラムで学んだことや気づいたことなどについて、記録広報班からのプレゼンテーションをします。

このプログラムはあくまでも「ファーストステップ」つまり「自分を変えるきっかけ」であり、この経験を今後の自分にどのように生かし、どう行動に移していくのかということが重要だと考えます。

まずはこの研修で得た刺激しあえる仲間と今後も高め合っていきたいです。そして、海外で働く人たちのお話でこれまで想像できなかったキャリアプランをイメージできるようになったので、将来を深く考えていきたいです。最後にこの先挑むどんな挑戦でも自ら動いてチャレンジできる自身がついたので、今まで自信がなくて選択肢できなかったものを含めて今後へ次なる目標を考えていきたいと思います。

(文責: 依田)

参加者インタビュー

今回の 23 名の参加者にインタビューをした結果の一部をご紹介します。研修中のアツアツの生の声を記録したものをもとにしていますので、FSP の様子がよりいきいきと伝われば幸いです。(編集の都合上、記録内容を一部改訂、省略しています)

FSP で学んだこと・成長したこと

3/7 〈シンガポール National University of Singapore(NUS)訪問を終えた時点で〉

質問:ここまでの FSP を終えてどう思いますか。

答え:やはり学ぶことが多いと感じます。具体的には、自分の英語力、リスニング能力のなさを痛感しました。NUS で英語での講義を受けましたが、ネイティブの教授の英語を聞き取ることが非常に難しかったです。ネイティブの方の英語も聞き取れるようになりたいと思いました。

質問:今の自分に一番足りないことは何だと思えますか。

答え:今まで、プレゼンテーションやお話を聞いたけれど、ただ受け身で聞いてしまっている気がします。もっとなぜだろう、とか、疑問を持ちながら聞くことが足りてないと思います。もっと自分のこととしてお話を聞く能力が必要だなと感じています。

3/10 〈シンガポールからタイへ移動する空港にて〉

質問:印象に残っている場所と、その理由を教えてください。

答え:NUS がとても印象に残っています。訪問国調査活動の時 NUS でインタビューをしました。最初声をかけるのにも緊張したのですが、やっていくうちにどんどん楽しくなりました。自分の積極性、勇気が非常に向上したと思います。

質問:自分の中で変わったこととかはありますか。

答え:アジア No1 の大学の学生と交流して、もっと勉強しないとイケないなと思いました。

3/10 〈スワンナプーム空港からバンコクへのバスの中にて〉

質問:一番大きな発見とかあれば教えてください。

答え:現地に来る前、シンガポールはすごい国なのだろうなとばかり思っていたけれど、それだけではなく、日本もやはりいい国だなと思いました。お互いにいいところも、悪いところもあるのだなということを実感しました。

3/15 〈タイの宿舎出発前〉

質問:教育機関訪問、企業訪問がすべて終わりましたが、どう思いますか。

答え:最初に訪れたシンガポールの印象が強かったです。シンガポールの大学は新しくきれいで大きかったことに比べて、タイは汚いイメージでした。タイのバンスー駅を訪れて、タイが発展していく様子を見ることができたのが印象に残っています。

質問:(企業訪問班班長へ)初めてリーダーをやって、自分としての成長はありましたか。

答え:リーダーとしてやっていくうえで、ある程度チーム全体の構成を決めて引っ張っていかなければいけないので、そこは難しいと感じました。ただ、良いアイデア、意見などはメンバーが出してくれるため、リーダー自身はある程度の方針を決めていくことが大事だと感じました。

FSP の良さ

3/8

質問:今の気分をお願いします。

答え:FSP は自分一人で来たら会えないような学生さんと交流できてとても楽しいです。

3/10 〈シンガポールからタイへ移動する空港にて〉

質問:FSP はどうですか？

答え:FSP いいです。日本の中で北大はすごい大学であって、勉強する環境も探したらちゃんとあるのだなとわかりました。言い訳をしていた今までの自分の甘さを感じることができました。すごく充実したプログラムなので、みなさんぜひ参加しましょう！

質問:シンガポールの体験で発見したことなどあったら教えてください。

答え:自分は初海外だったので、すごく刺激的な体験が多かったです。企業訪問、協定校訪問なども含めて、すごく発見に満ちた日々でした。

今後について

3/15

質問:タイの発展・飛躍が気になるということでしたが、タイにもう一度訪れたいと思いますか。

答え:昨日訪れたサイアム駅は東京かと思うほどすごく発展していてきれいでした。(今回の視察で訪れた建設中の)バンスー駅ができればさらに発展すると思うので、また 10 年後に訪れたいと思いました。

質問:10 年後に訪れたいということでしたが、その時自分はどうなっていると思いますか。

答え:今回いろいろな方のご講話をお聞きして、人生は大学を卒業して終身雇用で…というイメージがいい意味で覆されました。周りの波にのまれずに、自分のやりたいこと、できることを必死で探す、といった強い意志を持った人生を送り、波乱万丈でもいい人生だったといえる人生を送ってたいです。

編集後記

ここまでお目通しいただき、誠にありがとうございます。この報告書で、読んでいただいた方々に私たちの研修の様子をいきいきと伝えることができたら幸いです。この報告書は、メンバー全員の協力を得ながら、記録広報班の中の報告書担当の4人が主に執筆しました。中心となった4人から、一言述べさせていただきます。

私は、海外の学生の方と交流することによって勉強のモチベーションを上げたい、という思いからこの研修に参加しました。しかし、この研修で得られたものは、それだけではありませんでした。世界で活躍されている様々な分野の方々の生き様から得た考え方や、数日間を FSP メンバーたちと海外で頑張っていく中で感じたチームワークの大切さなど、日常生活では知ることのできなかったことばかりでした。私は FSP で学んだことをこれからも忘れることなく、必ず今後の生活の中で活かしていきます。本当にありがとうございました。(金井 美緒)

最後まで読んでいただきありがとうございました。報告書を考えながらシンガポールとタイで過ごした2週間や事前授業のことを自身の中で振り返りました。その中で成長したと思う部分とまだまだ自分に足りていないと思う部分の両方がありました。成長できた部分に関しても仲間の助けや訪問先の大学の学生の方々、企業の方々が提供してくださった環境なしには達成できなかったことで感謝の気持ちでいっぱいです。これから FSP の授業、そして共に学んだメンバーたちとは離れてしまいますが、より成長できるよう努力していこうと思います。(村井 佳奈)

私は、なんとなく海外に興味がある、というあいまいな理由で FSP への参加を決めました。結果的に、予想していたよりもずっと多くの発見、成長を自分にもたらしてくれたと思います。訪問先でお話を聞いたり、学生と交流したり、街並みを見るだけでも日本と全く違うので、毎日が刺激に溢れていました。私の拙い文章で FSP の魅力、訪問先でいただいたお話や、体験できたことの素晴らしさ、また私自身の感動と成長が少しでも伝われば幸いです。これからも、FSP で学んだことを忘れずに、さらに多くのことを学びたいです。(玉田 梨恵)

今回参加させていただいた FSP は、想像以上の経験を私にさせてくれました。参加を決断した時に学びたいと思っていたことはもちろん学び、考えることができました。しかし研修が進んでいくにつれ、こんなことを自分が学べるとは思ってもいなかった「想像以上」の数々の出来事が、私に新たな気づきと学びそしてより深く考えるきっかけを与えてくれたように感じております。そんな出来事が、各訪問先やその合間の時間に「秒単位」で私の中に変化を巻き起こしていたということが、この報告書から少しでも伝われば幸いです。(依田 恵)

謝辞

私たちがこのようにたくさんの学びを得られたのは、訪問させていただいた企業・法人の皆様、協定校・教育機関の皆様、引率並びにご指導くださいました国際連携機構の川端千鶴先生、石倉香理先生、石黒公美先生、科目担当教員の肖蘭先生、多くの方々のご協力やサポートがあつてのことです。心から感謝申し上げます。

最後に、慣れない海外の地で失敗をしたり、不安になったりした時にも共に行動し助けてくれる仲間がいたからこそ、この研修が充実したものになったと感じております。23名の仲間、ひとりひとりに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2018年4月25日

第23回 FSP アジア 記録広報班一同



一般教育演習(フレッシュマンセミナー):グローバル・キャリア・デザインⅣ
第 23 回ファースト・ステップ・プログラム(FSP)アジア 全体報告書

平成 30 年 4 月 25 日

編集: 第 23 回 FSP アジア記録広報班 報告書担当(玉田・村井・依田・金井)

問合せ先: 北海道大学 国際連携機構 国際オフィサー室(国際交流課)

電話: (011) 706-8032/8040

Email : ambitious@oia.hokudai.ac.jp

Facebook : <https://www.facebook.com/1ststepprogram>

Twitter : https://twitter.com/fsp_hokudai

Instagram : https://www.instagram.com/fsp2017_spring/